

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書③

岐阜県立池田高等学校

学校番号

20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>① 身につけた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒</p> <p>② 個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>① 生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく探究的な授業を実施します。</p> <p>② 培った知識・スキルを活かし、主体・協働的な活動を通じて、キャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」を実施します。</p> <p>③ ユネスコスクールとしてESDを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動を実施します。</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>① 将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒</p> <p>② 自身をしっかりと見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒</p>

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路情報を示し、生徒の可能性を引き出す」項目は肯定的な意見が生徒87%、保護者87%であり、「将来の希望にそった具体的な進路指導」項目は肯定的な意見が生徒88%、保護者80%であった。満足度が80%を超えているため、概ねニーズにあった進路指導ができたと思われる。 昨年度と比べ「進路指導」に対して保護者の「あまりあてはまらない」という否定的な回答が減少し、「保護者が必要とする進路情報を提供する場がある」というアンケート項目は保護者の肯定的な意見が7%増加した。これは新型コロナウイルス感染症が5類に感染症移行したことが大きい。5月に保護者参加型の進路ガイダンスや奨学金の講話などが実施でき、参加した30名以上の保護者の満足を得ることができた。また講話内容をweb配信と重ねることで、より多くの保護者に情報を届けることができた。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学年ごとに積み上げる確かなキャリア教育を通して一人一人が将来に対する明確な目標を設定して、学習意欲の喚起と学力の向上に努め、生徒の多様な進路希望を支援します。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導委員会 ・教育課程委員会 ・探究学習委員会		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>① 平常補習・夏季補習、スタディサプリ、外部模試を活用し、確かな学力をつけます。</p> <p>② 地域・上級学校・企業と連携しながら、組織的・計画的に進路指導を行い、生徒一人一人を進路実現に導きます。</p> <p>③ キャリアパスポートを活用し、在学中の活動と成長を記録し生徒自身が自己肯定感を高めることで、様々なことに挑戦させます。</p>	<p>(1) スタディサプリ活用率100%、到達度テストの活用</p> <p>(2) 補習参加者数と出席状況、アンケート調査満足度80%以上</p> <p>(3) キャリアパスポートを活用し「一年間の振り返り」で肯定的評価80%以上</p>		

9 取組状況・実践内容等 ・ガイダンスの実施や、専門外部講師による進路講演会の実施、および生徒個々の進路設計に向	10 評価視点 ① 進路ガイダンスの実施状況および満足度	11 評価 A B C D
---	---------------------------------	------------------

<p>けた、学年毎の系統立った体験型進路ガイダ ンスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職希望者それぞれに対応した各種外部模試および推薦入試に向けた小論文模試の実施 ・総合型選抜や学校推薦型選抜に向けた全職員体制の指導の充実 ・学習方法の工夫、学習支援ツール「スタディサ プリ」の活用 	<p>② 模試参加人数、事後指導</p> <p>③ 生徒満足度</p> <p>④ スタディサプリのアクティブ 率・宿題配信数</p>	<p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
---	--	--

<p>12 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○各学年に適切な進路ガイダンスを実施した。 3年生に進路ガイダンスを実施し進学希望者は私大4校に大学見学と希望学校の説明会を行った。また就職希望者は地元企業9社を本校に招き、就職ガイダンスを実施した。この日は進路を考える充実した1日となった。 また、1年生には昨年度より単位制になったため、コース登録が行われる6月に合わせ、5月に職業別ガイダンスを実施した。大学・企業・専門学校の担当者から各分野の詳しい説明が聞けて、コース選択の参考となった。 2年生の進路ガイダンスでは系統別学問のガイダンスを行い、進路について考えることができた。インフルエンザの流行の関係で一旦は学年閉鎖によって延期したが、日を改めて対面で実施することができた。</p> <p>○地元企業・医療・保育・警察で2年生にインターンシップを開き職業体験をさせ職業観の育成を図った。また2年生看護・医療コース選択者が揖斐川町主催の「ごちゃまぜ地域医療ワークショップ」に参加した。進路希望先や選択コースに合わせた職業体験に参加することで、キャリア育成に繋がった。来年度はさらに選択コースに合わせ、様々な進路に対応していきたい。</p> <p>○外部模試は就職から国公立大学志望者に対応できるよう、就職・公務員試験を始め、ベネッセ、河合塾、様々な模試を実施した。特に推薦入試では、模試結果を基にweb版コンパスを活用することで精度の高い指導・助言が可能となった。今年から河合塾の模試は個人申込となって教員負担は軽減減されたが、その結果3年生2学期以降の模試参加率が低下した。総合型選抜入試や推薦入試を進学予定者ほぼ全員が受験する以上、今後もこの傾向は続くと思われる。</p> <p>▲生徒数の低下による教員数の削減によって、仕事量の削減および業務の効率化が求められる。年々多様化する生徒の進路に対して、限られた人数の職員で対応するため、ICTなどを活用する必要がある。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
---	---	---

<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年入試が早期化し、来年度は大学入学共通テストが6教科になるため、模試を受験することが入試準備をする上でとても負担になる。入試準備が本格化する9月以降は3年生の外部模試を希望制にする。しかし一般受験を考えている生徒および国公立大受験を希望する生徒は受験をさせる。 ・近年推薦入試は増加したため、小論文が重要視されている。現状は各学年で小論文模試を実施しているが、教員負担や効果で十分とはいえない。小論文指導を充実させるため1年生は模試形式ではなく言語能力を育てるために教材を使いトレーニングを行い、2年生はICTを利用した小論文教材を活用していく。 ・2年生のコース選択をより充実させるために、地域連携をすることで様々な進路を考える体験活動をしたい。来年度は前期期末考査最終日に朝日大学の看護学科施設を見学するなど考えている。コースごと進路希望ごとに、校内外の活動を充実させ、キャリア形成を考えさせる。
-----------	---

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月28日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者共に80%を超える肯定的な評価が得られ、生徒の意向を十分に尊重しながら適確な指導をされておられるものと思います。 ・地域連携、体験活動することで多角的な視点で物事を見ることができ、小論文を書く時にも役立つ。改善方策案は適切であると思う。
